甲南大学図書館報

Vol. 24 No. 1 2008

# 藤棚

伝統と革新

新刊紹介

書庫入庫のすすめ

お知らせ

## 伝統と革新 ―「変わらないもの」と「変わるもの」―

経営学部教授 西 村 順 二

この原稿が図書館報「藤棚」の巻頭言に掲載される頃には、もう収拾がついているのでしょうか。最近の新聞・ＴＶなどを賑わせている偽装問題。皆さんはどの様に感じられましたか。その取り扱いは食料品であったり、菓子であったり、建築材料であったり、土産品であったり、贈答品であったりと多様ですが、いずれにせよ我々がこれまで信頼してきた企業組織が消費者を裏切る行為を長年にわたって続けてきたのです。安全で、安心で、信頼できる製品・商品だと思っていたものが、実はずさんな管理下におかれ、また偶発的ではなく意図的に偽装が行なわれていたのです。それを行っていた多くが、老舗であり、有名企業であり、ブランドパワーのある企業であり、長い歴史と伝統によって培われた信用を有する企業組織です。

では、老舗と呼ばれる有名企業が何故このような事態を招くようなことをしたのでしょうか。何故これらの企業組織は、偽装をしてまで経営を続けたのでしょうか。その理由・原因は様々に挙げることが出来ますが、一つの大きな理由として「慣性がきいてしまった」ということを挙げることが出来ます。「慣性がきく」ということは、惰性になってしまったということです。ルーチンワーク・日常業務に埋没してしまい、新しいこと・変化・変動への反応・感性･感覚が麻痺してしまうということです。問題が起こった、状況が変わったのに、立ち止まって考える・見直すことをせず、そのまま続けてしまうことです。よく、新聞やTVニュースで取り上げられる公共工事や、第三セクターの問題も同じ構図が描けます。それは、「予算がついたから」、「前例が無いから」、「面子があるから」、「もう決まったことだから」という理由にならない理由で、問題のある公共工事などが見直されることもなく、そのまま継続されていくことです。

ところが、最近滋賀県の嘉田由紀子知事が新幹線の新駅建設という既に決定されたことに対して、時代の状況などを考え、建設工事の凍結を打ち出し、結局新幹線新駅建設は中止となってしまいました。この知事が行った意思決定の政治的意味や経済的影響などに関わる「事の是非」に関する議論は別の機会に譲るとして、その勇気ある行動は評価されて然るべきです。従来のやり方・進め方･既定

路線であっても、問題があれば見直すという行動は、勇気を必要とするとてもタフな意思決定です。「何かを始めること」と「何かを止めること」では、明らかに後者のほうが大きなエネルギーを必要とします。それは、一度始まってしまったことには、多くの場合多数の関係者・関与者が存在するからです。それらへの影響は計り知れないくらい大きく、それらを考えると通常はなかなか止めることができません。しかし、嘉田由紀子知事はそれを行ったのです。その背景には「伝統と革新」というキーワードが隠されていると言えます。

広辞苑で「伝統」を引いてみると、「ある民族や社会・団体が長い歴史を通じて培い、伝えてきた信仰・風習・制度・思想・学問・芸術など。特にそれらの中心をなす精神的在り方。」とされています。また、「革新」は、「旧来の組織・制度・習慣・方法などをかえて新しくすること。改新。」と示されています。新漢和辞典によると、「伝統」とは「①系統や血筋を受けつぐ。また、その系統,血筋。②昔からの風俗・習慣･思想など受けつぐ。また、そのもの。しきたり。」であり、「革新」とは、「古い制度･風習・組織･方法などを改めて、新しくすること。」となります。さらに、最近皆さんが良く利用するインターネット上のフリー百科事典ウイキペディア（Wikipedia）を見てみると、「伝統（tradition）とは人間の行動、発言、思考及び慣習に見出される歴史的存在感を総称していう。歴史的存在感としての伝統の根拠とは具体的慣習と法秩序であり、それらの主体は組織、地域、家族、国家、神である。それらいずれが主体であるかによって伝統の内実も違ったものとなる。」とされています。また、「革新とは、字句通りの意味では新しく革めることを意味し、既存のものをより適切と思われるものに変更することを意味する。」となっています。

この「伝統」と「革新」は、別々に行われるべきものでしょうか。どちらかが優先されるべきものでしょうか。一方が実践されれば、他方は実践されないものなのでしょうか。いいえ、そういうものではありません。上記の広辞苑、新漢和辞典やウイキペディアの定義にもあるように、伝統は受け継ぐものですが、受け継いできたものであっても適切なものに変更する（革新する）べきものなのです。古くから「伝統と革新」という言葉は、重要視されてきました。それは、伝統と革新は排斥しあうものではなく、同時並行的に進めるべきことであるということです。松尾芭蕉が使った俳諧用語「不易流行」は、永続性(不易)もその時々の新風の体(流行)も、根元においては一であるということを意味しています。守るべきは守り、しかし変えるべきものは変える、それは実は同じ事を意味し、同じ事を目指しているのです。

そう言えば、ある通販化粧品のＴＶコマーシャルでこのところ「○○○は変わります。○○○は変わりません。」というメッセージが流れています。古くても良き部分があればそれを尊重し、それを残し、かつ新しく良きものを求めていく、そのためには現状を変えることも厭わないという企業姿勢を示しているのです。経営学では、成功体験から離れて新たな挑戦を行なうことを「アン・ラーニング」といいます。優れた経営者は、過去の栄光に固執することなく、常に新しいことにチャレンジしていくということです。しかも、惰性に流されず、ミスがあれば、問題があれば勇気を持って変更をしていくという姿勢です。いよいよ新しい年度が始まりました。学生の皆さんにも、是非知的好奇心を持って、「伝統と革新」の両者を常に心に留めて学生生活を送って欲しいと願います。